謹賀新年

▶角川文庫発行、図説俳句大歳時記より

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表3111番）
編集　編集委員会
印刷所　旭印刷所
電話（水俣）③4101番

新春随想

ギターとスペインと

六車　孝吉

昨年二月、農業視察団に参加して南欧を廻ってきた。バカチョンカメラにASA四〇〇のフィルムを入れると何処でも意外によく写る。余り便利過ぎて情緒がない。写真の整理をしていた家内が、これはよく撮れていますねえと言う。

週刊誌の際物記事から、目を離さずに生返事をしていたが、ヒョイと見ると、フラメンコダンサーの写真である。ダンサーが踊りながら急に廻転すると、当然のことながらスカートが広がりつつ上にあがる。上にあがったところで写っている。

グラナダのアルハンブラ宮殿は余りにも有名である。宮殿近くのホテルに泊り、全員下の街へ買物に行く。

グラナダはギター製作家の多い所であるが、ギターと言えば勿論スペインが本場で、スペインでの本場がグラナダである。通訳の三上君に同行して貰って、製作家の一軒を訪れた。安い物で五千ペセタ、邦貨で約三万円、一番いいのが三万ペセタである。四十数年憧れていたギターの本場だ。手にとって、サテ何を弾くかと迷いながら、F・タルレガの「アルハンブラの想い出」を弾きかけた、が待てよ、何も本場に来て赤恥をかくこともあるまい、ここは思案のしどころだと、大河原義衛の「アマリリスのボレロ」を弾く。これならスペイン人が知る筈がない、ザマーミロ。店の親父が替って無造作に弾きはじめた、何と見事なフラメンコ、危うい哉。結局買わずに店を出たが、何とも心残りである。

昭和二十三年、友人の梅崎氏と二人で、当時横浜に居住していたギタリストを呼んで、水俣でリサイタルを開いた。当時各五千円宛の出費であった。その時のギタリストが、現在の日本ギター連盟会長小原安正氏である。

全氏はスペイン留学前で、スペイン語をしきりに勉強していた。この時から私は、一時ギターから遠ざかった。小原氏も当時は若く、腕前も我々と大差がなかったし、私は失望と同時に自惚れた。NHKの「ギターを弾こう」の、小原聖子氏は、この小原氏の令嬢である。

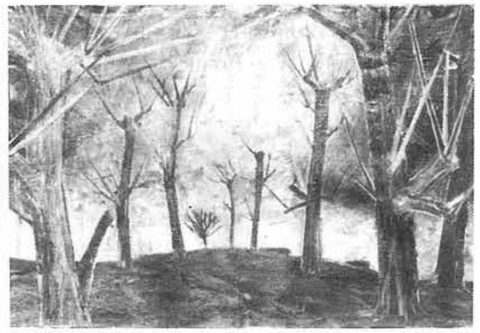
近年は寝る前に約三十分、専らナツメロを弾く。先に寝た家内が、フラメンコは、そんな風に弾くのですか、と、さも感じ入った様に言う。「どうだ俺の腕前は」と天狗になりかけてフト気付いた。枕頭で下手なフラメンコを弾かれて眠れる筈がない。

▲スペインの地中海沿岸の町で……

ひとこと（八）

昨年末NHKのウルトラアイと言う番組で掃除機を使って集塵したものを分析して居るシーンがありましたが、小さな塵を顕微鏡でのぞいてみると何か動いて居るものがあります。よくみるとダニですね、説明役の大学の先生のお話しでは殆んどの家庭に居り特に布団の中に多いとか、びっくりしてしまいました。併し肉眼では見えない程のダニ、人間には全然害を及ぼさないで人間様の体温の恩恵を蒙って生きて居る様で、これを全滅出来ないのかとの質問に、このダニを全滅させるには人間が生存出来ない状態にならなければならないとか。草も木も小さな虫さえ私達と生活を一緒にして居る、考えてみると全く共存の世界ですね。これを見ていて思い出した事は、坂村真民詩集の「二度とない人生だからつゆぐさのつゆにもめぐりあいの不思議を思い足をとどめてみつめてゆこう」「二度とない人生だから一匹のこおろぎでもふみ殺さない様に心してゆこう、どんなにか喜ぶ事だろう」とあったようです。一匹の小さな虫にも、又私の生活に邪魔になるものにさえ心してゆく心のゆとりと豊かな心を持ちたいものであると思う昨今です。（T）

津奈木の芸術



「反抗」

山下　益生

ある冬の夕暮、ランニングしていた私は言いようのない感動を受け、走るのを止めて自然の崇高さに見入った。

それは寒空は青とも赤とも灰とも言えぬ紫色で、夕雲を背に落葉した枯木のような木の枝が針のように鋭く冷たく突きささる光景は驚きそのものだった。そのうえ厳しさ、静寂そして反抗がにじんでいた。常に現実の自分の考え方、社会事象に疑問や反抗心をもち絵を描いていた自分の心と相通じたのかもしれない。

これでいいのか？とさらに新しく描き出すための自身への批判であり反抗であった。

三ヶ月かかって完成したが、単純化と自分の感動を色に出すのに苦労した。

36年目の中国（蘇州・南京）

私達は、上海から蘇州、南京、天津、北京と旅行を続ける中で、いくつかの小学校を訪問した。

どこの小学校でも「徳、知、体」を教育の基本方針に、中国の新国是ともいうべき、四つの現代化（農業、工業、国防、科学技術の現代化）の実現に向けて、国を愛し、人民を愛し、科学を愛し、労働を愛し、公共物を大切にするいわゆる「五つの愛」を教えているとの事だった。

粗末な教室で、教師と児童が真剣に授業にとり組んでいる姿は、私が知っていた昔の中国ではなかった。

（蘇州実験小学校の授業風景）

一方、水の都蘇州に見る、「月烏啼に落ち霜天に満つ」寒山寺もさることながら、「鐘山に竜横たわり、石城に虎踞る」古都南京の城壁には、二四〇〇年の歴史がそのまま刻みこまれている様だった。

洪秀全の太平天国農民蜂起、孫文の辛亥革命、蔣介石の国民党支配、そして中国人民軍による南京解放、とそれら変遷の中でなぜか日中戦争の南京攻撃の説明はなかった。

（鶴田幸人）

全国大会表彰二題

全国理容競技会で二位に入賞

福山登美雄さん

「この道に入って十五年になりますが、やっと一つの目標にたどりついた、という感じです。」

このほど松江市で開かれた第三十二回全国理容競技大会の「クラシカル・バックスタイル」の部に県代表として参加、準優勝となった。カットとアイロン技術を競うもので県代表の三位内入賞は初めてという。

以上は去る十一月十四日付熊本日日新聞の夕刊記事から抜粋させていただきましたが、福山登美雄さんは福浦部落の福山義人氏の二男で現在、熊本市桜木二丁目にお住まいです。

全国大会で優秀賞

学校農業ク林業の部で

浜田　和昭さん

日本学校農業クラブ連盟の第三十一回全国大会が去る十一月二十日、東京の都立農芸高校で開かれ、大会行事のメーンである農業鑑定競技・林業の部に県代表で出場した県立芦北農林高校生が最優秀賞と優秀賞に輝いた。

以上は去る十一月二十六日付け、熊本日日新聞の記事から抜粋しました。

優秀賞を受けた、浜田和昭さんは平国上、浜田進氏の二男で同校の二年生。

ちなみに最優秀賞を受けた山本文雄さん（八代郡泉村出身）は同校の三年生。

名木紹介（榊）

樹令推定　二五〇年以上　幹囲　九五糎
樹高　五米五〇糎　所有者　伊藤巽氏（上下門）

短歌

初日光あわき海辺にしらさぎの
餌あさりいて閑なる朝　笑鬼

秋すぎて夕日まぶしき赤尾島の
茜に今日の疲れ忘れる　浦田　和則

ふるさとの港は初春の泊り舟
平安の旗を高くなびかす　拙者

B&Gの誘致定りしふるさとの
朝光清し男島干拓　双岳

肥後狂句

そろっと、貯めたへそくりかんぜおる　笑鬼
古嬢、若づくりにや苦労する
そろっと、こたつの中で合図さす　凡九郎
古嬢、居てぞ越さるる年の暮れ
そろっと、手差し出アてかかじられ　一平
古嬢、男のごたるいびきかく
そろっと、寝た子のそばで手振らす　拙者
古嬢、十六人のおばあさん
そろっと、足なんかくる酔うたふり　双岳
古嬢、新婚当時はむぞかった

次題

黙まれ。こるが最後。各題二句限り、二月中旬まで公民館へ。乞う添削御用赦

正弘

成人おめでとう

聖なる灯に　将来の大成を　誓った若人たち

今年も多くの成人者を迎え、新春の三日、成人式典が町農業就業改善センターにおいて挙行された。

成人者出席九十名。成人者の受付を午前九時半に終了。

記念写真撮影後、六車町長より寄贈してもらった銀杏の木を、中学生時代のクラス別に総合グラウンド横に記念植樹、引きづづき暖房のよくきいた改善センターホールで、成人式典が始った。

六車町長挨拶のあと、山本県議会議員、川崎町議会議長等の祝辞に、山下恭司さんが成人者を代表して答辞を述べる。式典後、スライドにより「ふるさと津奈木」を紹介し、引続き婦人会接待による会食をしながら、成人者のユニークな自己紹介があった。

午後は青年団が成人の集い実行委員会を組織し、平野実行委員長を中心に、綿密な計画の下にキャンドル方式で成人の集いが行なわれた。プログラムは「感謝の集い」「歌と踊りの集い」「希望への集い」と次々に展開され、成人者達も時のたつのを忘れて楽しいひとときを過していた。

そして午后四時すぎ、お互いに名残りの握手をかわしながら去って行った。今日の日の思い出を胸に秘めて。

学びました

第六回水俣市芦北郡　国内研修に参加して

久村　庄次

去る十一月五日から九日までの五日間、水俣・芦北青年国内研修生として、山陰地方の萩市・松江市・西伯町・知頭町の四市町へ、津奈木町から、山崎秀晴・山本栄一・上原伸久・野崎みちよの四氏と行ってきました。

私の場合は、高校を出たばかりの青年団一年生でありますので、青年団のことはまったくの〝無知〟同然であり、国内研修の意義さえわからずに、参加申し込みをしましたが、参加させて戴いたおかげで、今後青年団に加入し続けて行く上で、青年団のことが少しは理解できたと思っています。この研修では、二十八名が一団と　行動しましたが、団体生活の難しさをしみじみと知ることができました。

この五日間の団体生活の中で共に生活して、新しい友人ができて、今では、町でばったり合っても気軽に言葉を交わしたり、研修での思い出話しをしたりできることが、研修を通じ、私自身に大きな収穫となりました。

研修地での研修内容を紹介しますと、史跡見学、講演などもありましたが、主に地元青年との意見交歓会が催されました。まず自己紹介を行い、本題に入りましたが、人前ではうまく話せなかったのが、何回となく経験する内に上がらなくなりました。

（知頭町の青年と仲良くパチリ）
津奈木町の青年は、前列右から、
上原伸久・野崎みちよ・一人おいて、
山本栄一・山崎秀晴の皆さんと私です。

本題では、各市町の青年団活動状況報告が発表され、この発表を元に交歓会が進められました。他市町の発表を聞いていると本町の活動内容には取り入れてない点が数多くあります。この中の一例を上げますと、智頭町青年団における「同和教育」で青年団が主体となり勉強会を開いている点と、時間厳守が厳しいことであり、この研修でも予定時刻10時になると、会が盛りあがっていても閉じてしまうほどです。

各市町青年団の抱える問題点は同じで、年々団員数が減少傾向にあり、団員数を増やすには、どうしたらよいか今後の対策などについて、双方とも活発に話しあわれた。この交歓会のことで、後悔することは、私がもっと青年団についての知識があったならばより積極的に会にも参加でき、有意義な研修ができたと思い、これが研修での一つの心残りであります。

五日間という、短期間の研修でしたが、時間の大切さ、団体生活のあり方等について、すばらしい研修をしたと思います。この研修で身につけた成果を、今後の青年団活動に大いに役立てていきたいと思います。

第九回全国女子青年集会に参加して

FF支部　佐々木　文子

全国から約三百名の女子青年が参加する大会が、十月十日から十二日まで、東京の日本青年会館で開催されました。

女子青年をとりま問題や、仲間の実践活動を出し合い、将来の生き方、今後の女子活動の方向を見出す、という趣旨のもとに、分科会、課題別集会、記念講演など、びっしりつまった日程で、とても充実した三日間でした。

他県団の活動内容は、合成洗済の問題、労働問題、結婚の簡素化等に取り組んでいる所もありました。

ある地域では、女性の賃金が日本一最低であったり、残業手当がもらえなかったり、また、ある地域では結婚するのに、一千万円ぐらいかかるので、昔から「あの地域からは、嫁はもらうな、嫁にも行くな」などと言われているのに疑問をもち、そんな習慣をなくすために、自分達で学習し、それを青年団だけに終らせないで、地域の人達と一緒に運動していこうと、真剣に取り組んでいるということでした。

この大会に参加して、一番心に残っているのは、「青年団を通して、何を得、何を学ぶのか、それは、たくさんの友達であり、同じ職場だけではなく、いろんな仲間達との出合いの中で、知らず知らずのうちに、一人の人間として、成長させてくれるのではないか」という助言者の話に参加者全員がうなづいていたことと、私達、熊本県団十三名と福島県団三十名との交換会でした。お互い県の紹介をしながら、熊本弁とずうずう弁が飛びかい、通訳をする者、笑いころげる者、夜中まで時間を忘れて、楽しく過ごしたことは一生忘れない思い出になると思います。

住んでいる所は違うけれども、地域の問題と真剣に取り組み、一人の女性として成長しようと頑張っている仲間達と、友達になれて本当によかったと思います。

第22回　県青年国内研修に参加

野崎　明光

去る九月一日から六日まで、岡山、山口両県へ、熊本県青年団体研修生として参加してきました。

この研修は、地域社会における青年活動、産業、教育、文化などについて、交歓研修、実地見学、調査研究を行い、社会的視野を広めるとともに、郷土の発展と青年活動の振興に資するという趣旨に基づいて、県内十一の教育事務所から、男子九名女子二名計十一名が参加しました。

この青年国内研修で、青年とはどんなものなのか、他の青年団はどんな活動を行っているのか、についての認識を深めることを、私の研修テーマとして、参加しました。

研修内容としては、岡山、山口両県の各市町村の教育委員会訪問、地元青年団との交流、施設、文化財の見学など、朝早くから夜遅くまで、ビッシリのスケジュールで、出発する前から、なんとなく不安でした。その反面、他県の教育委員会の訪問など始めての経験なので、興味深いし、熊本県青年の代表として、恥ずかしくないように、しっかりと研修して来ようと思いました。青年国内研修の中で、よく耳にした言葉は、「地域に根づいた青年団」ということでした。青年団活動が活発である所は、やはりその地域に根ざしていることで、地域からも、高く評価されていました。

これからの活動は、青年団だけでなく、地域の人と青年団が一体となって、行なわれて行くことが、青年団の発展、そして地域の発展につながることと思います。

この研修の成果をもとに、私なりに、青年団活動を通して地域の為に頑張りたいと思います。

第2回　青年祭

一生懸命頑張りました

青年団の文化活動の発展向上と組織強化を目的として、昨年より行って居ります。

「青年祭」を今年も十一月十五日に催しました。

この青年祭は町内六支部の全団員が一ヶ月程練習し、踊りや劇などを町民の皆様に見て頂いておりますが、私達のPR不足のために、観覧者はそれほど多くなく残念でした。

今年は新たに各支部の団員と活動状況の紹介、それと各種作品の展示もしました。

今後は、これまでの経験をもとに、展示物をもつと充実させると共に、踊りや劇なども津奈木に残っているものや語り継がれている民話などを題材に取り組んでいきたいと考えて居ります。

町民の皆様も私達と一緒にこの「青年祭」に参加していただき、共に楽しめるよう計画したいと思います。

これからも青年団活動に、深い御理解と御指導御鞭撻をよろしくお願いします。

レクリエーションリーダー研修に参加して

吉野　芳美

私は、レクリエーションという意味も判らないまま、先輩に誘われて、新立啓介、山本誠吾、佐々木文子の皆さんと、レクリエーション・リーダー研修に参加しました。

天草青年の家について驚いたのが、参加者の半数以上が女性で、それも十代から四十代までと年齢層が広く、私が今まで経験した研修とは全く違ったふんいきでした。

まず班編成がなされ、自己紹介、役員選出が行われました。班編成は、年令、職業、性別、出身地に関係なく編成されましたので、会社のレクリエーション担当、幼稚園の先生、青年団員、大学生、婦人会役員などと、いろいろな人達が参加していました。

またこの研修会への参加回数も始めての人は全体の三ぐらいで、ほとんどの人が、二回三回と参加しており、多い人は五回も参加しているとのことでした。

なぜそんなに何回も参加する必要があるのだろうか、と思っていましたが、ある研修生は、こう言っていました。

「私は、この頃仕事もマンネリ化して、やる気をなくしそうだったので、かって参加した事のあるこの研修会を思い出して、やって来ました。やっぱり来てよかった」と。

▲野外活動研修風景

私は、そのとき、レクリエーションとは、そういうものではなかろうかと、私なりに考えて帰ってきました。

町民皆スポーツに向って前進

昨年の12月に社会体育反省会を実施

昨年の十二月十五日公民館の和室で町民体育祭を中心とする社会体育の総合反省会が行われました。

出席者と活発な発言の主な内容は次の通りでした。

出席者、町長（体育協会長）、助役、教育長、区長、体育部長、老友会、婦人会、体育協会理事、各種目部長と体育指導委員並びに教育委員会事務局員ら多数が出席。

▲熱気のこもった反省会

内容

町長 皆さんのご協力で無事町民体育祭等の行事が終了したことに感謝します。

私としても色々反省すべき点をもっていますが、来年もさらに町民の健康増進と活力づくりのためにご発言を―。

発言A 男子35才以上のソフトボール大会は40才以上に、郡大会もそうなっている。

発言B それでは困る、部落に選手がいない。

発言C 五月の女子バレー大会はもう独身女性二名は抜いてよいのではないか。他に賛成意見あり。

発言D うちの部落は必要、独身女性だけの試合も必要。

発言E 来年はぜひ水泳大会に出場したい。

発言F 競舟は15日でよかった。練習をもっと早くさせてほしい。舟もふやしてほしい。

発言G 今度はB&Gのカヌー、カッター等も入れて―。

発言H ゲートボールを町民体育祭に入れてほしい。

以上の様な活発な発言が外にもたくさん出ました。

B&G

海洋スポーツと体育館そしてプール

総合グラウンドを陸上公認グラウンドに…町長方針

新春に汗を流す

今まで最高の一八〇名

第二回体力つくり新春マラソン大会が一月四日、干拓一周と京泊折り返しの二コースで行われ、それぞれの体力に応じた走り方で新春のひとときを楽しく過しました。

今までの最高の参加で、本町の西川収入役さんも日頃の運動不足解消にと、マイペースで力走されていました。

◆十キロの部▽一般男子①新立芳郎（水高）②福田必（町陸上部）③新立広（同）④宮島弘行（同）⑤福山幸喜（同）⑥長浜勝二（同）

◆三、四キロの部▽一般男子（三十才以上）①吉野泰市（津奈木町）②松田道明（同）③佐々木徳明（同）④古川秀喜（同）⑤[illegible]（同）⑥松田吉猛（同）▽中学生男子①川野弘久（津中）②福田征起（同）③真野幸雄（同）④村上慎一（同）⑤宮嶋健二（同）⑥津々木浩二（同）▽一般女子（中学生以上）①藤原みどり（水高）②浜田ゆみ（津中）③福山きりこ（同）④船場あき子（同）⑤林田博代（同）⑥福山るみ（同）▽小学生男子①田口祐二（津小）②西川良二（同）③松崎和信（同）④福崎宏（同）⑤柳迫信也（同）⑥松崎康洋（同）▽同女子①村上千晴（平小）②松田恵子（津小）③田口千里子（同）④吉野あけみ（同）⑤村上佳子（同）⑥柳迫美樹（同）

古川・新川部落が

恒例のレクリェーション大会

中尾はナイターで

高木盛一さん（浜崎）

スポーツは勝ち負けよりみんなで楽しみ地域づくり

"となり同志の親睦とレクリェーション"をねらいにミニスポーツ大会が町内のあちこちで行われていますが、古川と新川部落が昨年の十一月二日に子ども達も入れて、隣保班対抗形式で行いました。

古川部落はゲートボールとソフトボールの二種目を町民広場で、新川部落はゲートボールを実施。誰もが気軽に参加ができ、久しぶりの対話もできるということが大きな魅力の様で参加者も声をあげて楽しんでいました。

一方、中尾部落では昨年第一回のソフトボール大会を実施し、その盛り上がりで今年の元旦に駅伝大会を開きました。

主に子ども達の出場でしたが、大人は子どもを絶対追い越してはいけないという条件付の出場でした。

いずれの部落も区長さんはじめ、体育部長、班長その他多数の人達の世話が成功を収める大きな力であるようです。

ぜひこういう催しを続けていってほしいものです。

ソフトボールと元旦駅伝

▲ぜんざいで打上げは中尾

▲古川のソフトボール

▲新川部落のゲートボール

がんばりました

●健康づくり家庭婦人バレーボール大会

勝　染竹婦人チーム

優　染竹

（決勝戦）

染竹 2（21―17、21―10）0 役場

●ソフトボール秋季大会

55年度最後を飾るソフトボール大会は11月23日好天に恵まれ総合グラウンドで開催された。その結果信用金庫チームが堂々の優勝をなしとげた。

●剛功杯第一回男子バレーボール大会

第一回剛功杯大会は小・中学校両体育館において行われた。結果は次のとおりでした。

優勝　大迫チーム

二位　川内チーム

三位　平国下チーム

●婦人会郡スポーツ大会

本町チームが第三位を獲得しました。

生活改善に就いて

肥後路静歩氏（投稿）

首題の件に関しては種々様々の討議が過去数年に亘つてなされているものの、その実績は僅少でも効果があるものと期待しているものですが、年を追うて尚且つ自粛は実行の運びに至らず、無視したかの様に逆行し改善実践も空しく葬られている。

それではそのできない原因は那辺にあるのだろうか。

先づ推進事項の四項目を例にとると生活の中で最も大きな行事であることはわかりますが、それ故に、従つて其の経費の増大を招き、それに義理として応する人情的な点もあると思う。経済を無視して言うならば、誠に美しい慣習でもある、だからそれを改善することは非常に難しい。人間関係の疎遠を来たすおそれもある。

実践の対策としては、全く絶つか、自粛して自分なりの経費でなすか、二分されることであるが、その限界は難しく、後日の批判を思って実行に至らぬのが現状である。でも少しでもその方向に前進することを希望してやまない。

その少しでもに大きな決断を要する。ここで初めて転換期にはいり、お互いに理解をし乍ら実践の道に進むのではないでしようか。過去は総ての人にあるものであり、これに何…でも固執せず、改善するものは改善し、必要なことは持続して、非礼的なことも多少はあろうが、実践へ第一歩を踏みださない限り、幾年立っても空念仏に終る。

実践遂行のために婦人部の方が同調されていられることは誠に喜ばしいことであります。（以下省略）

この記事はご投稿いただいた文を掲載させていただきました。尚無断で記事の一部を読みやすい様に添削致しましたことを御容赦下さい。

庄やんの銭儲け算用（三）

津奈木民話

志崎鳥未

庄やんは、スグリワラの、頭をななでながら「お前も、おとらも、同じ津奈木の山に居って、年中、喧嘩ばかりしっては、おたがい困ったもんたい、そこで、俺が犠牲になって、仲裁しゆう、おとらには、俺がようか按梅に話しておいた、お前も俺にまかせんか」と云った。庄やんの、仲裁の条件は、山家の境を、薬草岳の、水の湧く処を境にして、水は、どちらも飲んでよいようにする、と云うのである。スグリワラも、「おとらがよかなら俺もよかたい」と承知した。

庄やんは、早速仲直り式の準備に取りかかった。

八朔（はっさく）の午前二時、薬草岳のてっぺんに両方共全員集合。

酒肴は全部庄やんが、実費であげどうふ、やきいも、ねずみのてんぷら、などいろいろ、狸や狐の好きそうなものを、どんどん作って、薬草岳のてっぺんに、庄やん夫婦は、やっこらさと運んだ。

で安い値段で売るように、小店を出す、と云うことになった。庄やんは、急に忙しくなった。八朔に、薬草岳のてっぺんに、店を出さねばならんかった。

スグリワラ一族も、おとら一族も、大勢そろって、威勢よく乗り込んで来た。

庄やんの立合で、話合いはめでたく済んで、後は、飲めや歌への大賑いとなった。

庄やんも、向う鉢巻きで、威勢よく、店をあけて、大売り出しを始めた。

（文責、堀二雄）

いよいよ八朔が来た。午前二時、人間共は里で、静かに眠っているが、けものの世界は、夜が天国だ。

スグリワラ一族も、おとら一族も、大勢そろって、威勢よく乗り込んで来た。

庄やんの立合で、話合いはめでたく済んで、後は、飲めや歌への大賑いとなった。

庄やんも、向う鉢巻きで、威勢よく、店をあけて、大売り出しを始めた。

（文責、堀二雄）

水俣高校（定時制）で学んでみませんか

一、本校定時制は夜間、修業年限四年の学校で、年齢、性別の制限はありません。卒業証書は全日制と全く同じものが授与され、既に八〇二名の卒業生が各方面で活躍しています。

二、学校案内

(1)授業は基礎から解かるように指導します。

(2)始業時刻は十七時四十分、四十五分授業が毎日四時間行われ、放課は二十一時五分です。

(3)パンと牛乳の補食給食があり、無料です。

(4)授業料は月額千百円です。

(5)幅広い奨学金制度（月額七千円など）があります。

三、生徒募集

学科	定員
商業科	四十名
衛生看護科	四十名

〈備考〉

衛看科は技能連携のため水俣准看護高等専修学校に合格し、更に高校入試を受けなければなりません。

四、本年度入試関係日程

(1)願書受付

二月七日(土)―二月十四日(土)

(2)学力検査

三月十一日(水)、十二日(木)

(3)合格発表

三月十九日(木)

詳しくは熊本県立水俣高等学校定時制へ（電話（三）―一二六一）

通信教育で学ぶなら県立江津高校へ

仕事をしながら勉強したい方は、入学試験、年齢制限なしで、経費年間約一万円、年間二十日の登校（江津高校が遠距離のため、芦北農林高校を利用できます）四年間の学業を終えれば他の高校と同様の資格が得られます。

受付期間は昭和五十六年二月二十日から三月二十五日まで。尚詳細は熊本市出水四丁目三五〇県立江津高等学校へ

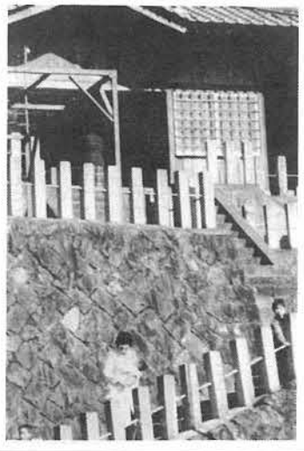
な～るほど天ぷらの衣は氷でとく

カラッとした天ぷらは歯ごたえもよくおいしいものです。

「このこつは、衣にあります」氷水で小麦粉をとかしましょう。なおこのときあまりこねまわしすぎますと、小麦粉にねばりが出て、衣がからりとあがらなくなります。

追記、先号でニンニクのことで書きました所、さっそく、梅干よりも、シソの葉がよいと、お知らせをいただきました。有難うございました。

歳時記

子を抱いて石段高し初詣

野崎立子「立子句集」